資料編

資料編は、氷見まちなかグランドデザイン策定に至る検討経過、まちなか市街地に関わる現況資料、公共空地活用検討に関わる参考資料、パースイメージを示します。

© 藤子スタジオ

1.　策定の流れ

（1）検討体制

氷見まちなかグランドデザインは、３つの委員会を設置して検討を行い、策定を進めました。

①　氷見市市街地グランドデザイン検討委員会

関係機関代表者、各種団体代表者、公募市民、有識者等で構成された検討委員会において、まちなかビジョン、４つの公共空地等の活用プランに関する審議を行いました。

②　氷見市市街地グランドデザイン庁内検討委員会

庁内の関係する課等で構成された庁内検討委員会において、まちなかビジョン、４つの公共空地等の活用プランに関する企画・立案を行いました。

③ 氷見市市街地グランドデザイン庁内検討委員会　分科会

各公共空地の活用に関係する施設の管理や整備方針について、その担当課等が関係者と調整を行い、具体案を検討しました。

＜旧市民病院跡地＞

芸術文化振興室、地域防災室、事務局

＜旧市役所跡地＞

観光交流・女性応援課、商工・定住課、事務局

＜市民会館敷地＞

教育総務課、図書館、博物館、地域防災室、事務局

＜旧朝日丘小学校跡地＞

子育て支援課、スポーツ振興室、教育総務課、事務局

＜漁業文化交流センター＞

漁業文化推進室、事務局

（2）検討経過

平成 29 年 7 月～平成 30 年 3 月に 4 回の検討委員会や意見交換会を開催しました。

第1回検討委員会　平成 29 年 7 月 13 日

まちづくりの目標と必要な都市機能について

○まちなか市街地のまちづくり目標
○各公共空地の現況とこれまでの意見や提案
○必要な都市機能など

第2回検討委員会　平成 29 年 9 月 20 日

まちなかビジョンと公共空地等の利活用について

○まちづくりの視点、まちなか形成軸の方針、ゾーン別まちづくりの方針、交通システム・回遊動線の方針
○各公共空地の活用の方向性など

第２回検討委員会

意見交換会

第１回　氷見市商店街連盟	平成 29 年 10 月 20 日
第２回　朝日丘地区	平成 29 年 10 月 23 日
第３回　東地区	平成 29 年 10 月 31 日

意見交換会（朝日丘地区）

第3回検討委員会　平成 29 年 12 月 21 日

各公共空地等の活用提案について

○各公共空地等の活用提案に対する検討
・各公共空地等の活用プラン
・その他の関連施設など

意見募集・意見交換会

○パブリックコメント	平成 30 年 1 月 15 日～2 月 13 日
○市民意見交換会	平成 30 年 2 月 5 日

市民意見交換会(いきいき元気館)

第4回検討委員会　平成 30 年 3 月 2 日

氷見まちなかグランドデザインのとりまとめについて

○氷見まちなかグランドデザインの全体とりまとめ
・まちなかビジョン編
・公共空地活用計画編
・事業推進編

（3）委員構成

＜氷見市市街地グランドデザイン検討委員会　委員名簿＞　　（敬称略・50 音順）

氏名	所属
網田　　勝	氷見市自治振興委員連合会　副会長
安藤　辰徳	氷見市小中学校ＰＴＡ連合会　副会長
伊藤　宣良	氷見市農業協同組合代表理事　組合長
大嶋　　充	氷見市自治振興委員連合会　副会長
尾畑　納子	富山国際大学 現代社会学部　学部長　教授
柿谷　政希子	富山県立氷見高等学校ＰＴＡ　副会長
上坂　展弘	富山県土木部都市計画課　課長
齋勝　　巌	公募市民委員
酒井　佳織	新町保育園　保護者会　代表
杉木　知栄	公募市民委員
髙木　俊幸	氷見市体育協会　会長
高嶋　　達	氷見市社会福祉協議会　会長
○ 寺下　利宏	氷見商工会議所　会頭
東海　志帆	公募市民委員
堂端　誠作	氷見市老人クラブ連合会　会長
冨樫　克哉	民間保育・幼稚園事業者（氷見市子ども・子育て会議委員）
◎ 中川　　大	富山大学（大学院理工学研究部　教授）副学長
中村　　剛	氷見市商店街連盟　会長
中元　颯希	富山国際大学　学生
西川　扇博	氷見市芸術文化団体協議会　会長
萩原　康忠 （三國　博之）	氷見青年会議所　理事長
蜂谷　俊雄	金沢工業大学 環境・建築学部　学部長　教授
松波　久善	氷見市健康づくりボランティア連絡協議会　会長
松原　勝久	氷見市観光協会　代表理事会長
村江　省三	氷見市小中学校ＰＴＡ連合会　会長
森本　太郎	氷見漁業協同組合　代表理事組合長
屋敷　夕貴	氷見市連合婦人会　会長
山崎　勝弘	南大町こども園　保護者会　代表
山本　　遥	富山国際大学　学生
○ 猶明　孝信	氷見市自治振興委員連合会　会長

（注）名簿は、平成 30 年３月現在　（　）内は前任者　　◎委員長、○副委員長

＜氷見市市街地グランドデザイン庁内検討委員会　委員名簿＞

氏名	所属
林　　正之	市長
前辻　秋男	副市長
山本　　晶	教育長
藤澤　一興	市長政策・都市経営戦略部長
山口　　優	まちづくり推進部長
髙橋　正明	総務部長
草山　利彦	市民部長
表　　良広	建設農林水産部長
荒井　市郎	教育委員会事務局　教育次長
荻野　直樹	市長政策・都市経営戦略部　防災・危機管理監
宮本　祐輔	市長政策・都市経営戦略部　地方創生政策監
出戸　勝教	企画政策課長
小野　正蔵	地域防災室長
森田　博之	商工・定住課長
平田　哲朗	芸術文化振興室長
角井　久則	スポーツ振興室長
岡田　基義	観光交流・女性応援課長
京田　武彦	財務課長
戸田　勝浩	福祉介護課長
東海　由紀	子育て支援課長
大野　一也	建設課長
串田　安弘	水産振興課長
東軒　宏彰	教育委員会事務局　教育総務課長
大石　泰浩	漁業文化推進室　主幹

平成２９年５月現在

＜事務局＞

氏名	所属
浅海　義治	まちづくり推進部　都市・まちづくり政策監
桶元　勝範	まちづくり推進部　参事
神代　　太	都市計画課長

2. 市の概況

（1）氷見市の人口と住まい方

＜総人口＞

氷見市の総人口は、2018 年現在で約 48,000 人で、1950 年代の約 70,000 人をピークに減少傾向が続いています。

ここ数年は毎年 700 人のペースで減少しています。

＜世帯数＞

世帯数は、戦後ずっと増加傾向にありましたが、2015 年から 2016 年には、17,700 世帯から 17,667 世帯へと減少に転じました。

１世帯あたりの平均人数は約 2.8 人です。（住民基本台帳より算出）

＜人口密度＞

2010 年の氷見市全域での人口密度は、2.36 人／ha ですが、市街地中心部では、40 人/ha 以上の地域もあります。

＜住居水準充実度＞

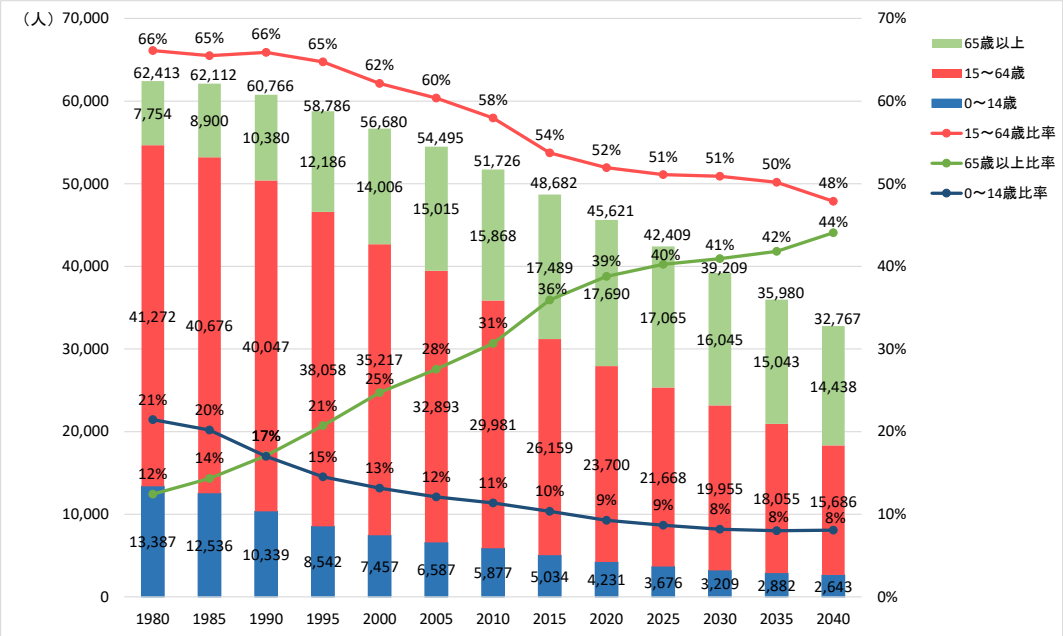
2017 年に実施された東洋経済新報社の「全国すみよさランキング」では、全国 814 都市の中で総合 68 位となっています。また住居水準充実度は全国１位となっており、住宅延べ床面積、持ち家世帯比率ともに、全国的に高い水準にあります。

（2）人口推移の予測

国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、2040 年には 32,767 人に、2060 年には 21,867 人に減少することが予測されています。

また、65 歳以上の人口が占める割合（高齢化率）は、2015 年で 36.1%となっていて、2040 年には 44%に上昇する予測がなされています。

＜氷見市の年齢３区分別人口の将来予測＞

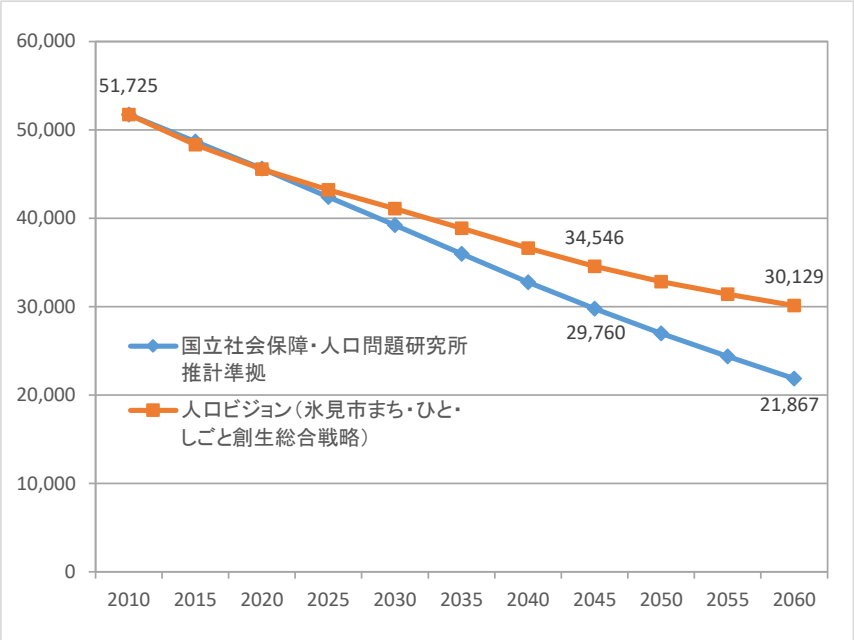


資料：国立社会保障・人口問題研究所

（3）人口目標

国立社会保障・人口問題研究所による 2060 年の人口推計は 21,867 人ですが、氷見市まち・ひと・しごと創生総合戦略では、「出生率が段階的に向上（2030 年までに 1.9→2040 年までに 2.07）」および「社会純増が+150 人」を実現した結果である 30,129 人を、2060 年の人口目標としています。

＜人口目標＞



資料：氷見市人口ビジョン

（4）氷見市の産業と土地利用

＜市の産業＞

2010 年の就業者数は、約２万５千人です。１次産業就業者数の割合は、1975 年には 20%を超えていましたが、2010 年には 4.9%まで減少しました。全国平均の 3.7%よりは若干高い水準となっています。２次産業従事者数の割合は 37.0%、３次産業従事者の割合は 58.1%です。

＜土地利用＞

市面積 23,049ha のうち、市街地を中心とした用途地域の面積は、694ha で約３%です。用途地域内に全人口の約４割が住んでいますが、周辺部へのスプロール現象が見られます。市街地には、商業施設や医療施設、高齢者の福祉施設、子育て支援や教育施設等の生活サービス機能の集積がなされてきました。

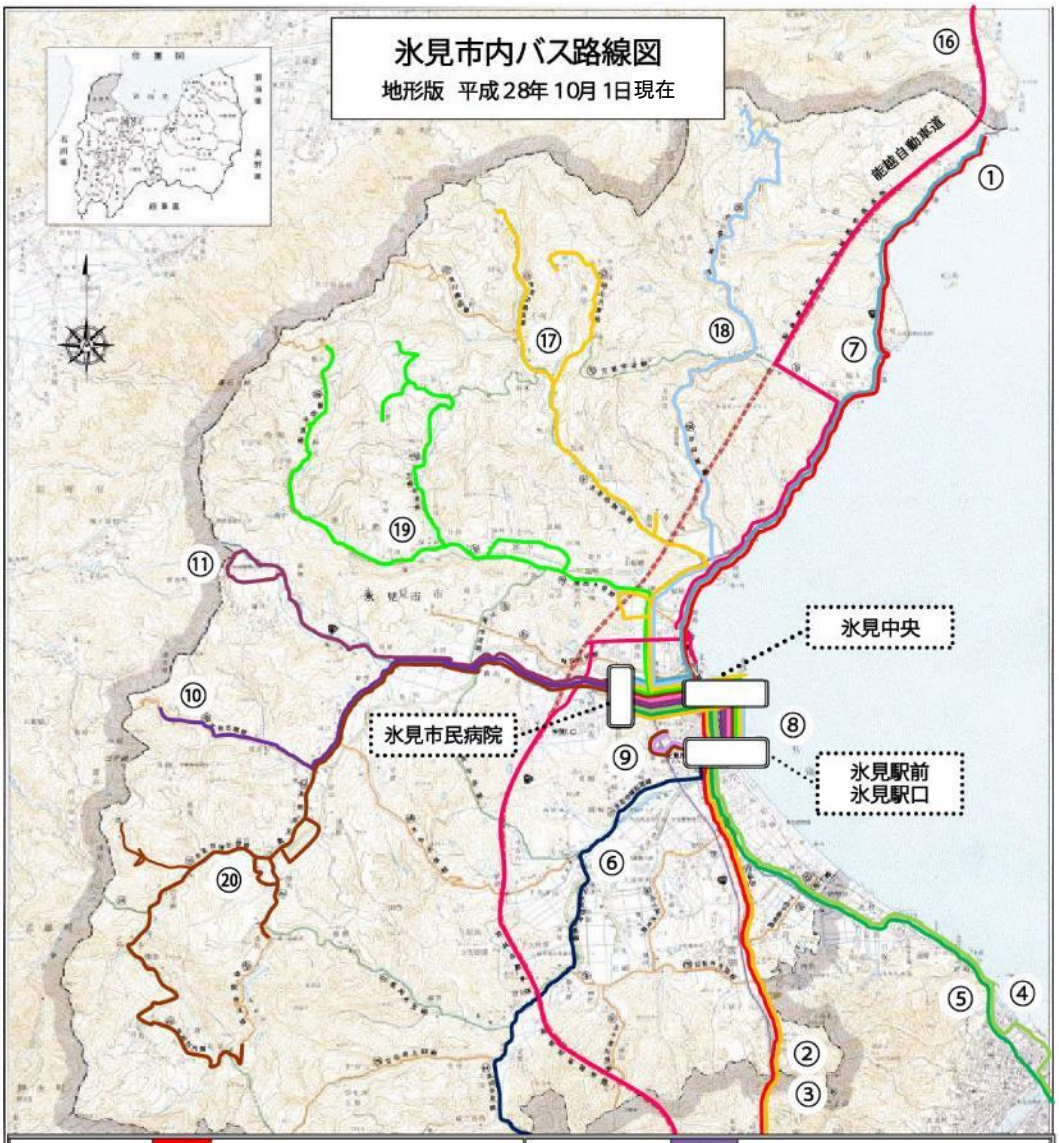
（5）氷見市の交通と観光客数

＜交通＞

平成 28 年度の氷見駅の乗車人数は、年間約 31 万人で、平均 853 人／日です。バスについては、民間バスが 16 系統、NPO バスが 4 系統運行されています。市街地では、「氷見駅口」～「氷見中央」～「氷見市民病院」区間に路線が集中しています。

＜観光＞

平成 28 年における氷見市への観光客入込数は、220 万人を超え、その内宿泊客数は、約 23 万人となっています。ひみ番屋街への来館者数は、約 120 万人です。



加越能バス株式会社	①	脇	加越能バス株式会社	⑩	三尾
	②③	守山経由・新高岡守山経由氷見		⑪	論田循環
	④	伏木経由氷見		注記	⑩ ⑪ の2路線は平成30年4月から廃線
	⑤	高岡ふしき病院経由氷見		⑯	わくライナー
	⑥	仏生寺	八代地域活性化協議会	⑰	磯辺線「ますがた」
	⑦	氷見市民病院脇		⑱	灘浦線「なだうら」
	⑧	氷見漁港経由氷見市民病院	余川谷地域活性化協議会	⑲	碁石線「やまびこ」
	⑨	氷見高校	久目地域協議会	⑳	久目線「くめバス」

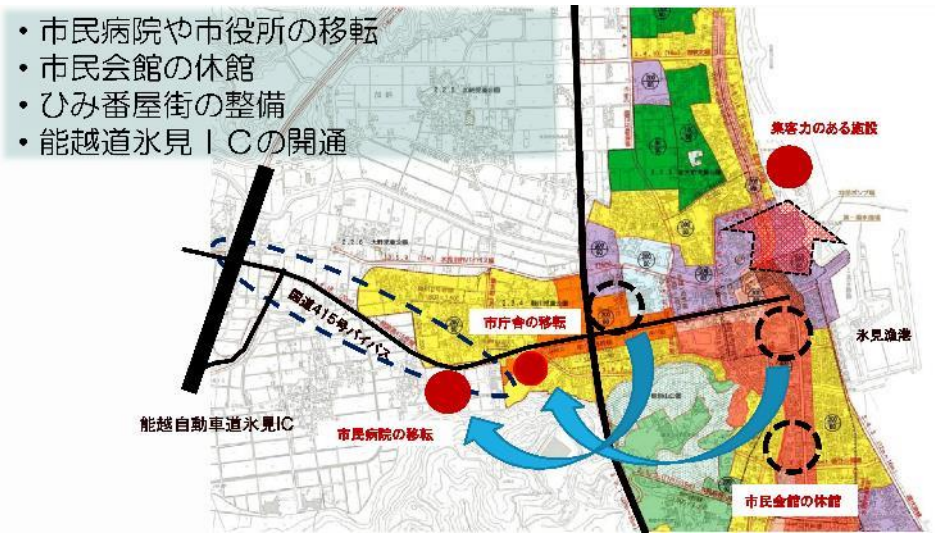
※この他、加越能バス（株）が運行する路線バスとして市街地周遊バス（３路線４系統）があります。

3. 市街地の地域特性

（1）まちなか市街地の都市構造変化

＜近年の都市構造変化＞

市民病院や市役所の移転、市民会館の休館やひみ番屋街の整備など、この 10 年間に中心市街地の都市構造が大きく変化しています。



＜空き家の増加と市街地の空洞化＞

平成 25 年「住宅・土地統計調査」から、空き家率をみると、市全域の空き家率は 16.1%で全国平均の 13.5%より高い割合です。

- 全　国：13.5%（平成 20 年から 0.4%上昇）
- 富山県：12.8%（平成 20 年から 0.5%上昇）
- 氷見市：16.1%（平成 20 年から 3.6%上昇）

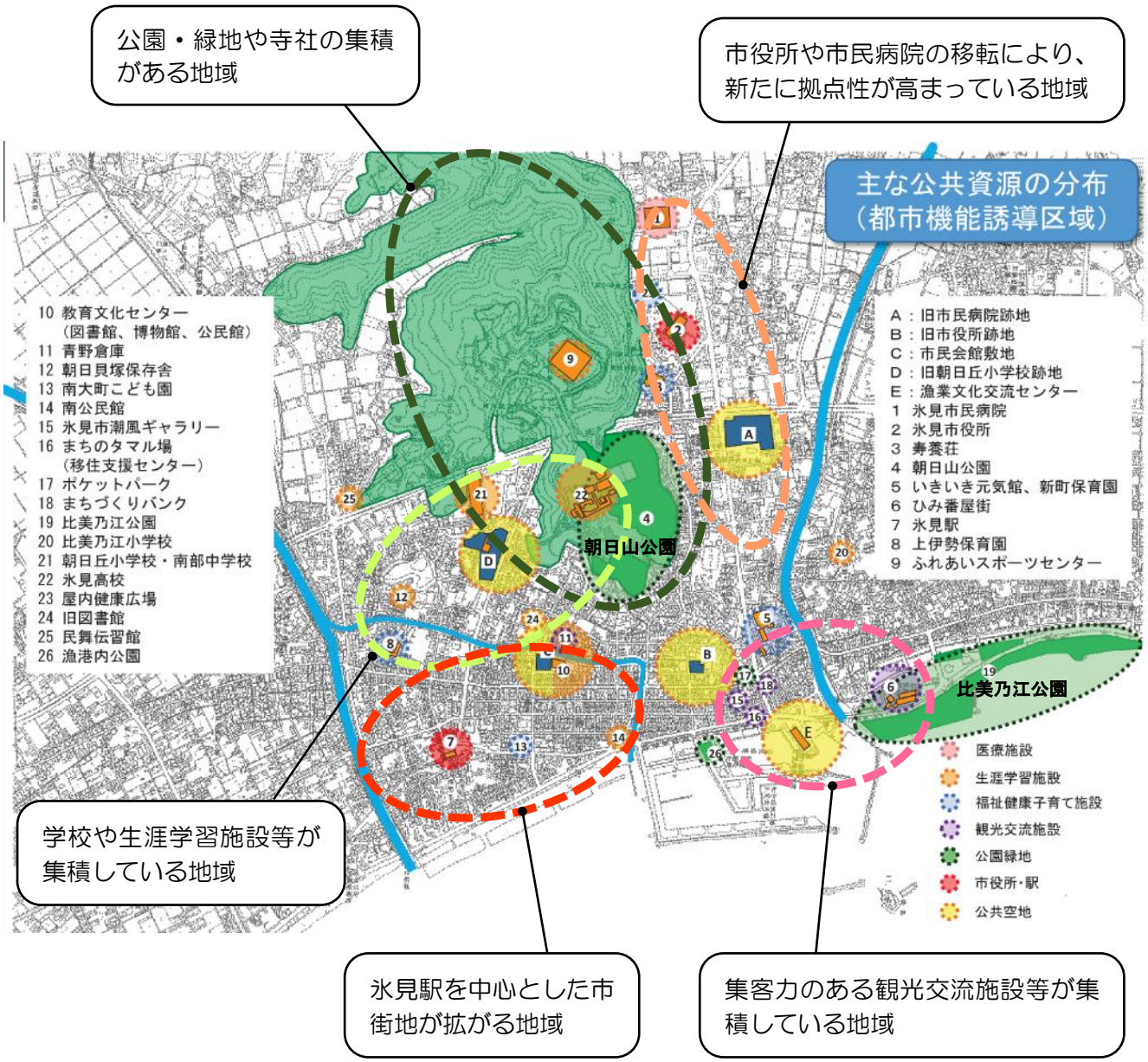
なお、平成 27 年度に市で行った中心市街地内の戸建て木造住宅の空き家調査によると、空き家率は約 10%で、空き家軒数は 474 戸となっています。

（２）まちなか市街地の地域特性

まちなか市街地の地域特性を整理し、その特性を踏まえた現状の地域区分とまちづくり資源を示します。

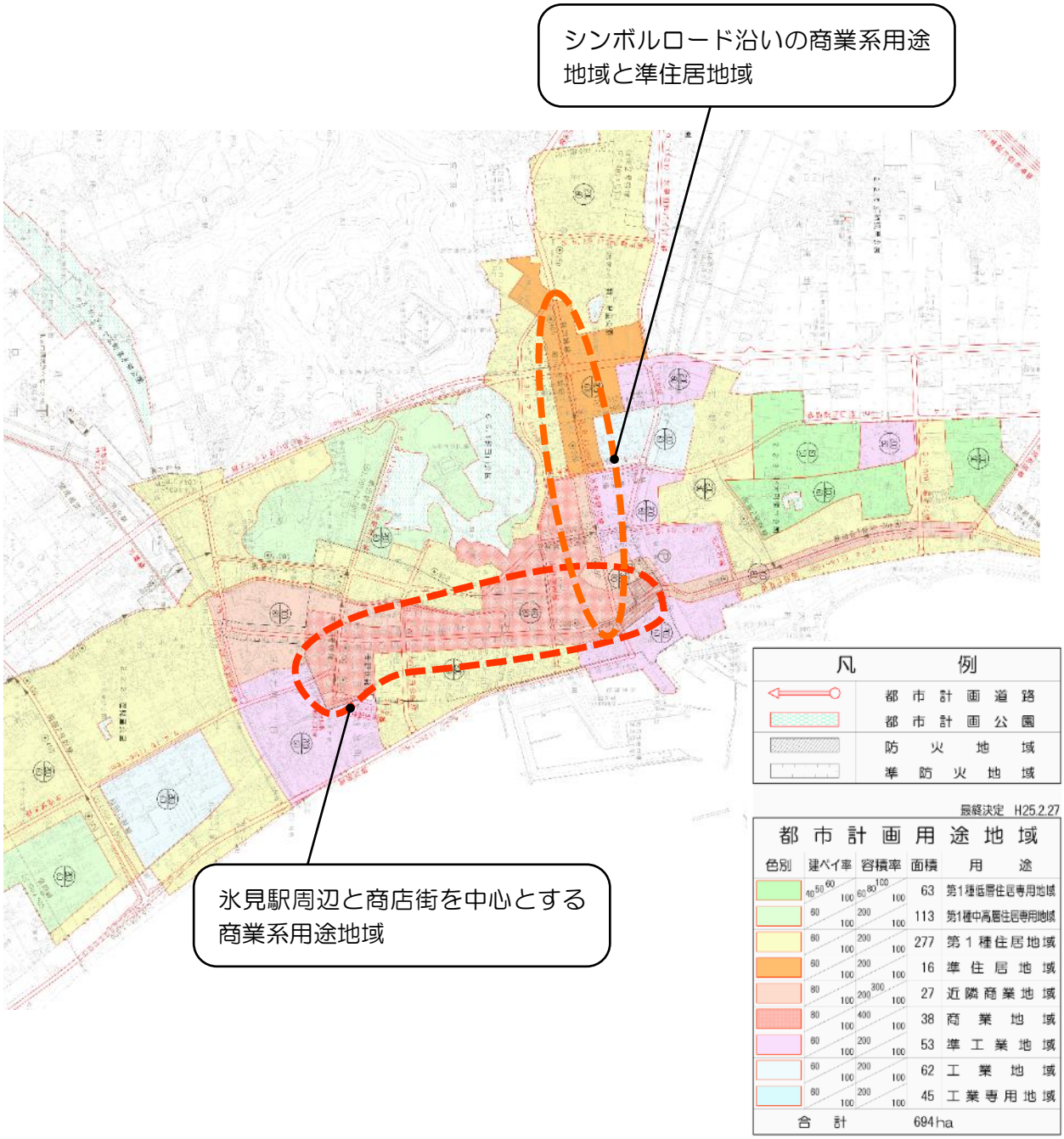
１）公共資源の分布から見た土地利用特性

まちなか市街地は、公共資源分布から見ると、「役所や市民病院の移転により、新たに拠点性が高まっている地域」、「集客力のある観光交流施設が集積している地域」、「学校や生涯学習施設等が集積している地域」、「公園・緑地や寺社の集積がある地域」「氷見駅を中心とした市街地が拡がる地域」の５つの土地利用特性が見られます。



2）都市計画用途地域から見た土地利用特性

まちなか市街地は、都市計画用途地域から見ると、商業系用途地域と準住居地域が、シンボルロード沿いと商店街沿いにＬ型帯状に分布していることがわかります。



３）まちなか市街地の現状の地域区分とまちづくり資源

土地利用や資源分布等の同質性などを踏まえて、現状の地域を区分すると、「シンボルロード周辺」、「比美町・中央町商店街・氷見漁港・ひみ番屋街周辺」、「氷見駅・本町商店街周辺」、「朝日丘地区周辺」、「朝日山周辺」の５つの地域に区分出来ます。

① シンボルロード周辺

＜地域区分の考え方＞

・シンボルロード沿いの商業系用途地域と準住居地域を中心とした、市役所から中央商店街までの地域

＜特性・資源＞

・車による広域的なアクセス性、市役所や市民病院に近い公共的な拠点性、シンボルロードのゆとりのある道路空間、国道 160 号と 415 号の交差付近に集積する商業施設、上庄川沿いの漁村風景、朝日山ふもと沿いの旧街道景観、活用が考えられる旧市民病院跡地

＜留意点＞

・シンボルロード沿いの未利用地の存在、連続性のないファサードや用途の混在

② 比美町・中央町商店街・氷見漁港・ひみ番屋街周辺

＜地域区分の考え方＞

・ひみ番屋街等の観光交流施設が集積している地域と、商店街及び漁港を含む海に面した地域

＜特性・資源＞

・集客力のある広域的観光資源の存在、漁港・海岸線・遊覧船乗り場、上庄川等の海と水辺の景観、海岸沿いに整備された比美乃江公園、藤子不二雄Ⓐ氏生家の光禅寺やまんがワールドの存在、商店街の集積、黒瓦の連続した町屋の町並、大火を免れた街区の存在、活用が考えられる旧市役所跡地

＜留意点＞

・上庄川を境にした南北エリアの分断、空き店舗の目立つ商店街

③ 氷見駅・本町商店街周辺

＜地域区分の考え方＞

・氷見駅周辺と本町商店街周辺を中心とする商業系用途地域を中心に、河川と海に囲まれた地域

＜特性・資源＞

・鉄道駅の広域アクセス性、商店街の集積、黒瓦の連続した町屋の町並、湊川のうるおい空間や海岸線の存在、図書館・博物館等の文化施設の集積、水産加工関連の生業風景、活用が考えられる市民会館敷地

＜留意点＞

・駅前が寂しい印象があり海を感じられない、空き店舗が目立つ商店街、空き家が目立つ町屋地区

④ 朝日丘地区周辺

＜地域区分の考え方＞

・小中高等学校や生涯学習施設等が集積し、住宅地として連担している地域

＜特性・資源＞

・緑豊かなゆとりのある戸建て住宅地、小中学校や氷見高校等の教育施設の立地、歴史資源としての上日寺の存在、図書館・博物館等の文化施設の集積、駅からアクセス性の良い道路、活用が考えられる旧朝日丘小学校跡地

＜留意点＞

・学校や子育て資源を居住促進に活かすことが必要

⑤ 朝日山周辺

＜地域区分の考え方＞

・朝日山の公園や緑地の広がり、寺社が集積する地域

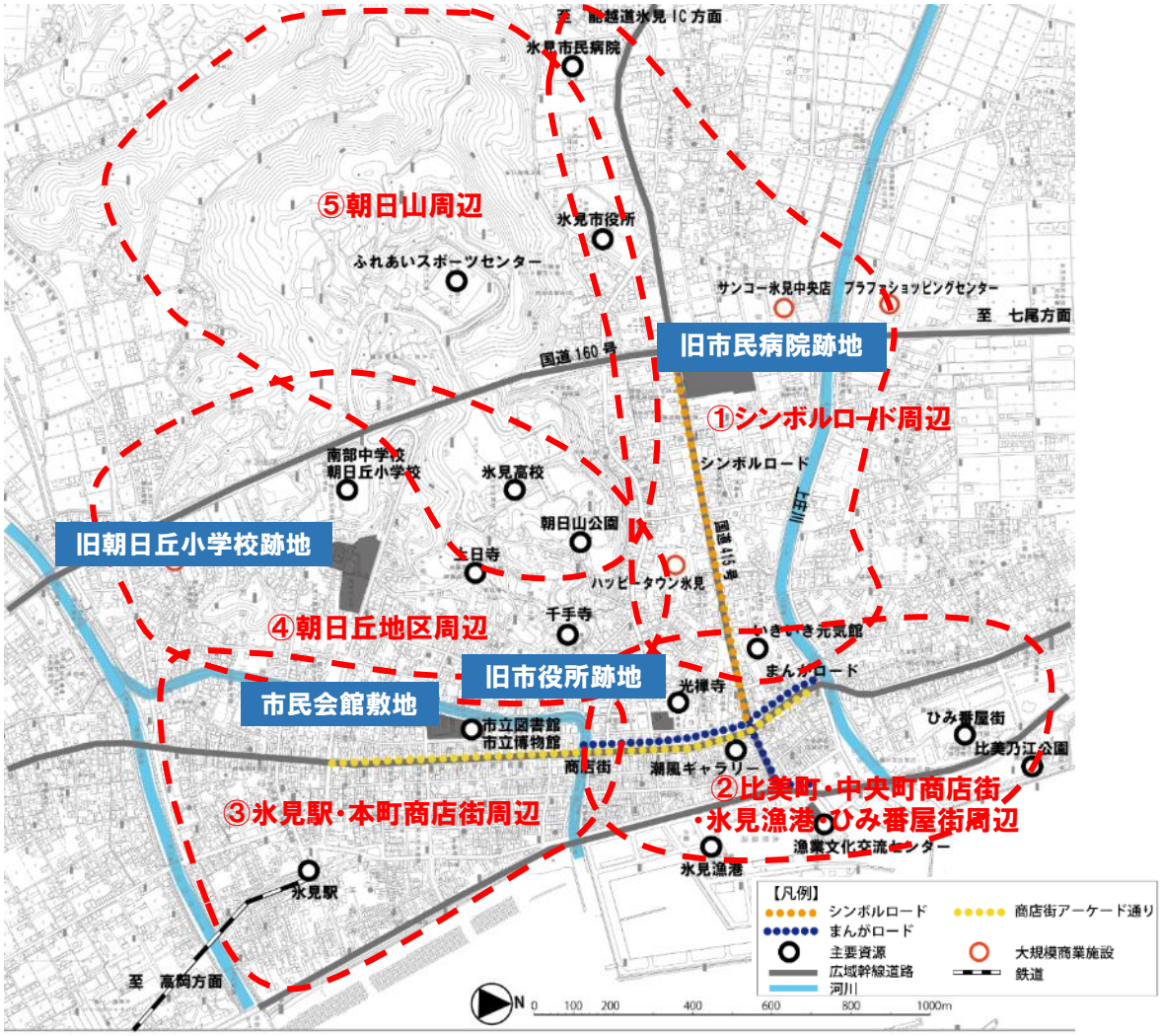
＜特性・資源＞

・豊かな自然資源の存在、見晴らしの良い公園やスポーツ施設等の立地、小中学校や氷見高校等の教育施設の立地、歴史資源としての上日寺や千手寺の存在

＜留意点＞

・限られた公共交通によるアクセス性

＜まちなか市街地の現状の地域区分図＞



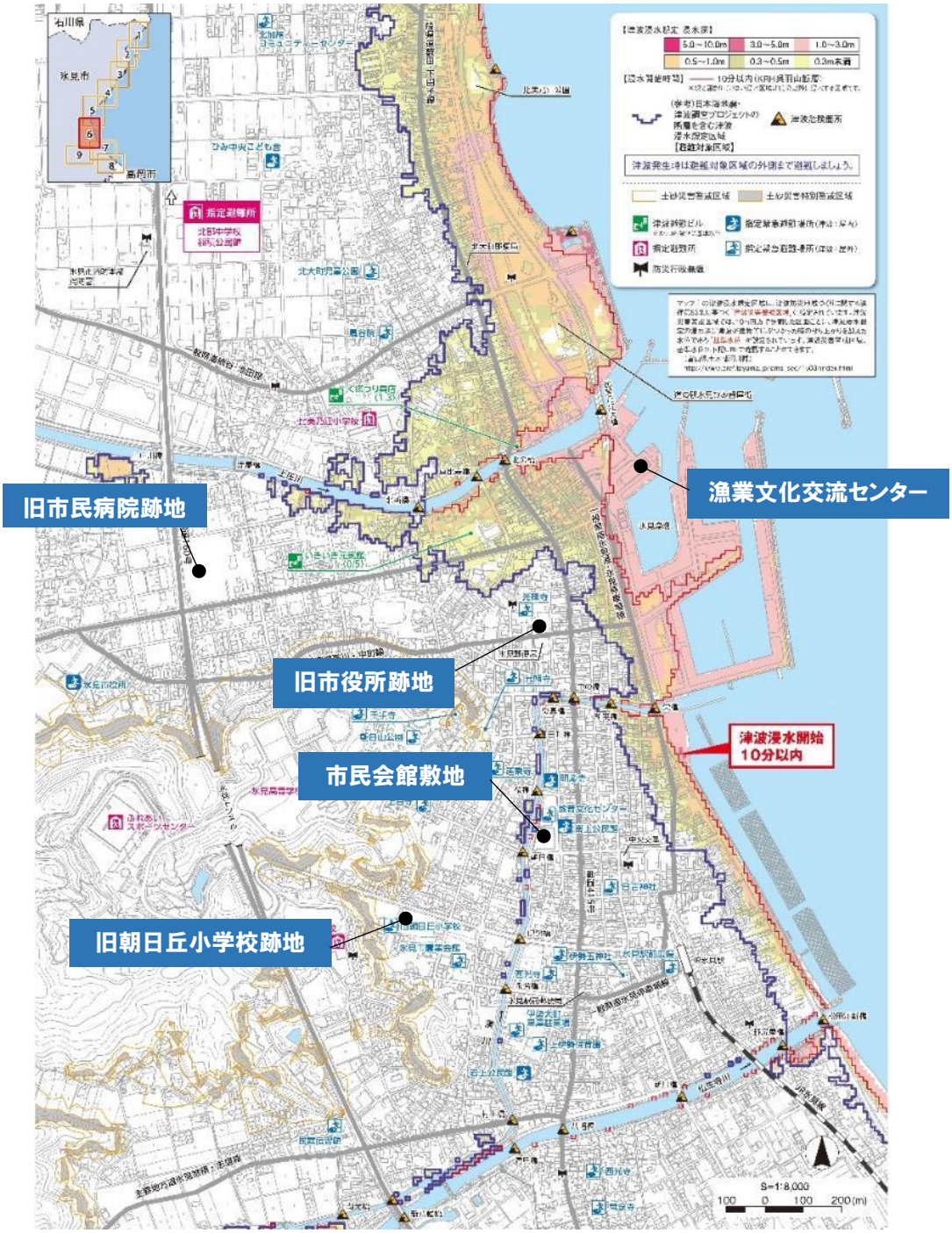
（３）防災関連

１）津波シミュレーション結果

４つの公共空地は、いずれも津波の浸水想定区域には入っていませんが、漁業文化交流センターは浸水深１ｍ～３ｍ未満の区域に入っています。

中央町と北大町の上庄川河口付近と、県道氷見港氷見停車場線沿いは浸水想定区域に入っており、一部には浸水深が 1～3mにかかっている地域があります。（薄ピンク色エリア）

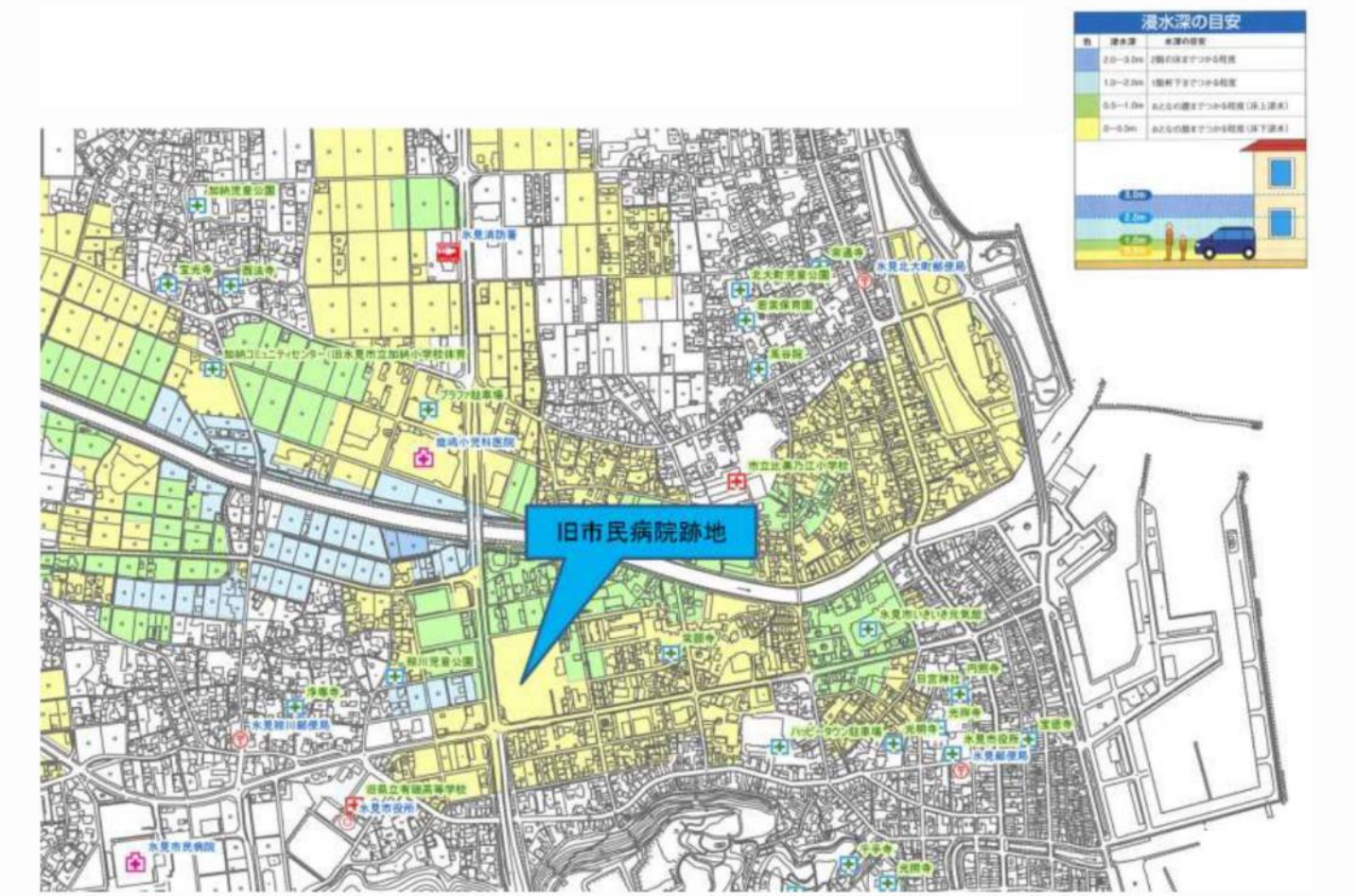
県道氷見港氷見停車場線から海側の漁港エリアのほとんどは、浸水深 50cm～１ｍ、あるいは１ｍ～３ｍ未満となっています（黄土色エリア、あるいは薄ピンク色エリア）



平成３０年３月現在

2）洪水による浸水想定区域

旧市民病院跡地は、大雨の洪水時に浸水（0～0.5m）が想定される区域に入っています。



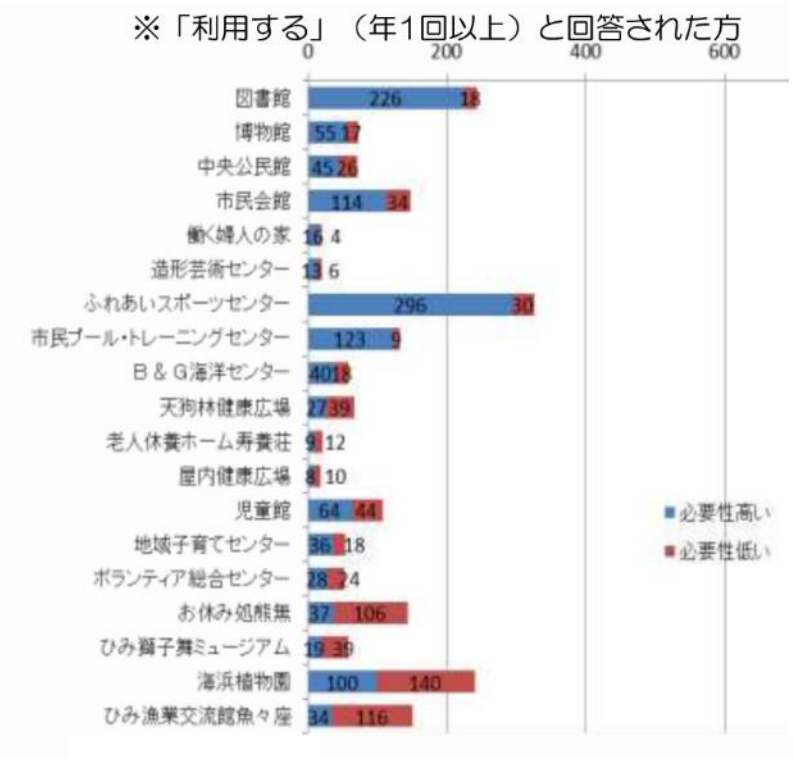
3）土砂災害警戒区域・特別警戒区域

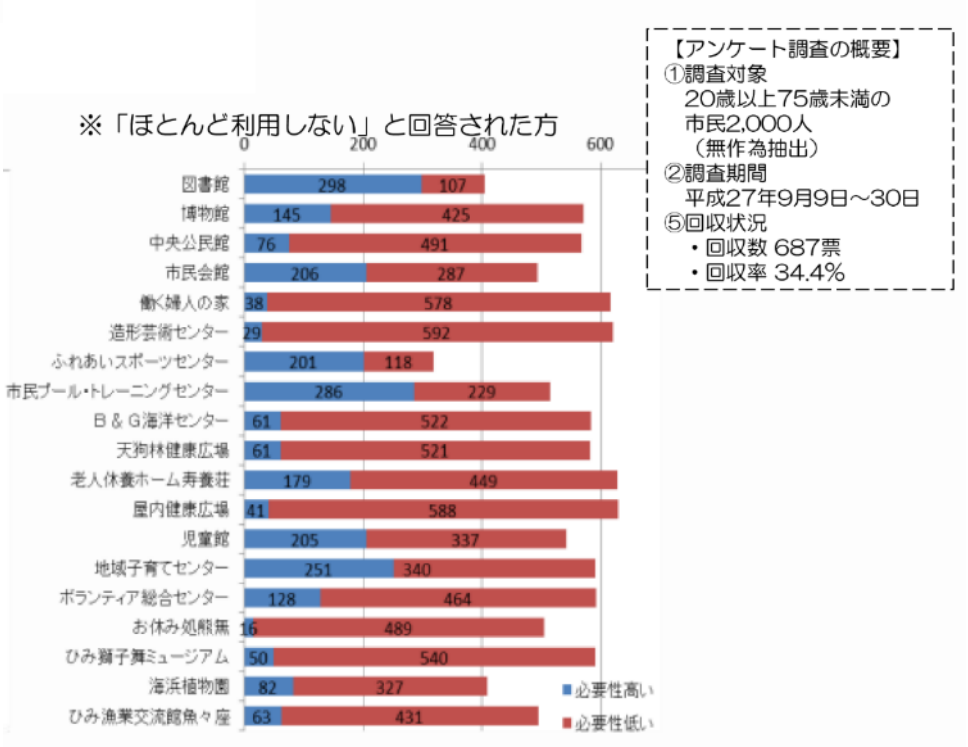
旧朝日丘小学校跡地の敷地の一部は、土砂災害が生じる恐れがある区域にかかっています。

（４）市街地の公共施設に対する市民ニーズ（公共施設の利用頻度）

【市民アンケート調査結果】

平成 27 年９月に行ったアンケート調査によると、施設の利用者（年１回以上利用）に加え、非利用者（ほとんど利用しない）からも必要性を評価されている（必要性高いが 30%以上）施設としては、図書館（73.6%）、ふれあいスポーツセンター（63.0%）、市民プール・トレーニングセンター（55.5%）、地域子育てセンター（42.5%）、市民会館（41.8%）、児童館（37.8%）などが挙げられます。





【アンケート調査の概要】
①調査対象
20歳以上75歳未満の
市民2,000人
（無作為抽出）
②調査期間
平成27年9月9日～30日
⑤回収状況
・回収数 687票
・回収率 34.4%

4. 公共空地活用検討の参考資料

（1）4つの公共空地の利活用の方向性

行政課題である、市民要望が高い文化施設の建設と、老朽化の著しい南部の保育・幼児教育施設の移転の必要性を踏まえ、４つの公共空地の利活用の方向性を検討します。

		旧市民病院跡地	旧市役所跡地
面積		21,536 ㎡	2,441 ㎡
用途 容積率/建ぺい率		準住居　200%/60%	商業　400%/80%
位置的特徴		広域幹線道路 160 号と 415 号の交差部	商店街沿い
まちなかビジョンにおける位置づけ	ゾーン別まちづくりの全体的な方針	＜新文化・活力創造ゾーン＞ ・市内外からアクセスしやすい環境と、市役所・市民病院との近接性を活かし、市全体の交流や活動を促進するまちを形成する	＜観光まちなか回遊ゾーン＞ ・漁業文化や生業・まんがを軸にし、既存の観光資源への移動の利便性の高い回遊性のあるまちを形成する
	まちなか形成軸	まちなか形成軸上	まちなか形成軸の交差部
	まちなか回遊動線	―	まちなか回遊動線上
新しい文化施設の建設場所についての検討		○ ・十分な敷地面積を有する ・２つの国道に面し、バスターミナルに近いなど市内外からの交通アクセスに優れる	△ ・敷地面積が不十分 ・幹線道路に面していない
		⇒上記検討結果より、文化施設の建設場所は、旧市民病院跡地が適している	
市街地南部のこども園の移転候補地についての検討		―	―
４つの公共空地の利活用の方向性		「文化施設を核とした“まちの顔となる新シンボル”」 交通条件を活かした広域的利用圏と新文化施設の建替えを踏まえた、文化交流・創造の拠点の形成	「まんがをテーマにした“まちなか回遊拠点”」 観光客をまちなかに誘い込む、まんがをテーマとしたまちなか回遊拠点の形成

市民会館敷地	旧朝日丘小学校跡地
4,220 ㎡	14,620 ㎡
商業　400%/80%	第一種中高層住専　200%/60%
湊川沿い	住宅市街地の中
＜交流・憩いゾーン＞ ・図書館や博物館、朝日山、湊川との近接性を活かし、氷見の「歴史・文化」を再発見できる、交流・憩いのまちを形成する	＜文教・子育てゾーン＞ ・小中高と朝日山に近接した緑豊かな環境等を活かし、子育て支援と文化教育機能の充実による多世代が暮らしやすいまちを形成する
まちなか形成軸上	―
まちなか回遊動線上	まちなか回遊動線上
△ ・敷地面積が不十分 ・氷見駅から近いが、幹線道路に面していない	× ・用途地域の制限から、劇場（ホール）機能の立地不可
△ ・市民会館の解体後になるので着工が遅くなる ・商業地域内にあり、子育て環境面への影響が懸念される ・市民会館敷地を回遊拠点としては想定できない ・教育文化センターと合わせた駐車場確保を考えると、敷地面積がやや不十分	○ ・更地のため施設建設の早期着工が可能 ・近接する小中高と連携した特色ある教育環境を形成することが可能 ・市民会館敷地を回遊拠点として活用可能 ・敷地面積が広く駐車場が十分確保できる
⇒上記検討結果より、市街地南部のこども園の移転候補地は、**旧朝日丘小学校跡地が適している**	
「図書館、博物館と一体となった“水とみどりの憩い空間”」 図書館、博物館と連携した、市民交流と誘客を促進する水とみどりの憩い空間の形成	**「小中高と連携した“総合的な子育て支援の拠点”」** 豊かな自然・文教環境に恵まれた保育・幼児教育施設のある子育て支援の拠点の形成

（2）文化ホールの規模比較

ホールの席数を検討するに当たり、概算整備費、管理運営費、過去の催し物の実績、今後想定される活用例を 500 席と 800 席について比較しています。

500 席の場合は費用を低く抑えられますが、興行などには少し使いにくい規模ですが、過去の催し物については 600 人規模の事例を除けば、ほぼ対応可能です。

客　席 数	５００席
概算整備費	２７億 ～３１億5,000万円 4,500㎡×（60万円/㎡～70万円/㎡）
管理・運営費/年 （全国公立文化施設協会資料より）	5,400万円 3.9㎡（１座席あたりの面積）×500席×28,000円/㎡（単位面積あたり運営費）
過　去　の 催　事　例	志太ら和太鼓教室＆ミニライブ（100） 氷見市吟道大会（200） 輝け！！富山県民謡大会予選会（300） 真咲杏子リサイタル（300） 中央幼稚園発表会（300） 新春邦楽大会（300） 志太ら「蒼の大地」（400） 音・舞・吟のつどい（400） 富山県内の稚児舞と雅楽（400） 戦没者追悼式（450） 総合芸能大会（500） 第27回民謡民舞まつり（500）
想定される 活　用　例	施設完成時は、小学生「**１学年**」による合同利用が可能 施設完成時は、中学生「**１学年**」による合同利用が可能 平成39年以降、小学生の「**２学年**」の合同利用が可能 平成42年以降、中学生の「**２学年**」の合同利用が可能 高校求人企業説明会 スポーツ大会の開会・閉会式 氷見市戦没者追悼式 在宅医療推進市民フォーラム 保険・医療・福祉関係者のつどい 介護予防大作戦 認知症を考える講演会 能越自動車氷見区間建設促進協議会 氷見市小学校合同芸能鑑賞会（午前・午後２回）市内４～６年生 氷見市中学校音楽会 ひみっ子夢と希望 北地区小学校音楽発表会・南地区小学校音楽発表会 教育セミナー 10月の華展 日本舞踊発表会・おさらい会 芸術活動発表会 こどもたちのピアノ発表会・舞踊発表会 高校演劇部による発表会 各種コンベンション アーティストやアマチュアバンドによるライブコンサート
総　　括	施設完成時には、小学生及び中学生の「**２学年**」による合同利用ができない 小学生の**３学年合同**利用はできない 中学生の**全学年合同**利用はできない 概算整備費、ライフサイクルコスト共、低く抑えることが出来る 興行は、収容規模が小さく開催しにくい 過去の公演事業は、ほぼ可能

800 席の場合は興行的にも使いやすい規模となり、今まで 2 回に分けて行っていた小中学校の 2 学年合同利用が、まとめて開催できるなどメリットはありますが、500 席に対して費用は必要になります。

客　席 数	**800席**　ホール（2層）500席 300席
概算整備費	30億6,000万～35億7,000万円 5,100㎡×（60万円/㎡～70万円/㎡）
管理・運営費/年 （全国公立文化施設協会資料より）	8,700万円 3.9㎡（1座席あたりの面積）×800席×28,000円/㎡（単位面積あたり運営費）
過去の催事例	「いじめから子どもを守ろう！氷見市民大会」（600） ひみっこ夢と希望きらめき「佐藤真美講演会」（600） 氷見市中学校音楽会（620） 氷見高校定期演奏会（630） 男声合唱団演奏会（650） 第58回富山県環境保健衛生大会（650） 「ブラザーブラザー」（650） NHKラジオ「民謡をたずねて」（700） 氷見市老人クラブ連合会芸能大会（800） 八代亜紀ふれあいコンサート（1,200　2回公演） 氷見市小学校合同芸能鑑賞会（1,330　2回公演）
想定される活用例	施設完成時から、小学生の**「2学年」**による合同利用が可能 施設完成時から、中学生の**「2学年」**による合同利用が可能 平成37年以降、小学生の**「3学年」**の合同利用が可能 平成40年以降、中学生の**「全学年」**の合同利用が可能
	左記の他、 市内合同成人式（400人+父兄（400人の1/3）） 富山県更生保護大会（23年に1回　平成33年氷見市で開催予定） 氷見市老人クラブ芸能大会 氷見市美術協会展・造形芸術センター受講生作品展 新春邦楽会・総合芸能大会 NHKラジオの公開録音 出演者によるが、興行（音楽）の鑑賞 高校甲子園出場、インターハイ、全中優勝など報告会や激励会 映画祭やロケ地先行試写会の開催 富山県更生保護フェア（12年に1回） 合唱演奏会 民謡民舞まつり 和太鼓イベント（有磯太鼓等） 氷見高校定期演奏会
総　括	施設完成時から、小学生の**「2学年」**による合同利用が可能 施設完成時から、中学生の**「2学年」**による合同利用が可能 概算整備費、ライフサイクルコスト共、若干高い 興行は、高い採算性・利益率は期待できないが開催は可能 今まで2回に分けていた2学年合同利用をまとめて開催できる

（3）富山県内文化ホールの設置状況

県内の市町村における、文化ホールの設置状況です。10 市を比較すると、800 席を超える文化ホールがないのは、南砺市のみとなります。ただし、南砺市は 600 席～700 席規模のホールを 2 箇所所有しています。

	施設名称	所在地	座席数		
			800席以上	500～799席	499席以下
県	富山県民会館	富山市新総曲輪4-18	1105		
	富山県教育文化会館	富山市舟橋北町7-1		621	
	富山県高岡文化ホール	高岡市中川園町13-1		705	300
	富山県民小劇場(オルビス)	富山市桜町1-1-16(マリエとやま内)			220
	新川文化ホール(ミラージュホール)	魚津市宮津110	1191		300
	とやま自遊館	富山市湊入船町9-1	800		
富山	富山市大山文化会館	富山市上滝577		615	
	富山市民プラザホール	富山市大手町6-14			308
	富山市芸術文化ホール(オーバード・ホール)	富山市牛島町9-28	2200		
	富山市婦中ふれあい館	富山市婦中砂子田1-1		672	
	富山国際会議場(大手町フォーラム)	富山市大手町1番2号	878		
	富山市八尾コミュニティセンター	富山市八尾町井田126			320
	フォルツァ総曲輪	富山市総曲輪3-3-16 ウィズビル4F			234 120
高岡	高岡市民会館	高岡市古城1-3	1702		
	高岡市ふくおか総合文化センター(Uホール)	西砺波郡福岡町大滝44			304
	高岡市生涯学習センター	富山県高岡市末広町1－7			403
射水	射水市新湊中央文化会館	射水市三日曽根3-23	1220		394
	射水市大門総合会館	射水郡大門町大門67			342
	アイザック小杉文化ホール(ラポール)	射水市戸破1500	818		240
砺波	砺波市文化会館	砺波市花園町1-32	1063		
	砺波市庄川生涯学習センター	砺波市庄川町青島3607			300
	砺波市出町子供歌舞伎曳山会館	富山県砺波市中央町8-23			250
南砺	南砺市井波総合文化センター	南砺市山見1400		674	
	福野文化創造センター(ヘリオス)	南砺市やかた100		613	
	南砺市城端伝統芸能会館(じょうはな座)	富山県南砺市城端1046			475
小矢部	小矢部市総合会館	小矢部市城山町1-1			368
	クロスランドおやべ(クロスランドセンター)	小矢部市鷲島10	932		365
入善	入善町民会館(入善コスモホール)	下新川郡入善町入膳3200		560	
黒部	黒部市民会館	黒部市三日市2981	1200		
	黒部市宇奈月国際会館 （セレネ）	黒部市宇奈月温泉6-3		700	280
	黒部市国際文化センター(コラーレ)	黒部市三日市20	886		208
魚津	新川学びの森天神山交流館	魚津市天神野新147－1			120
滑川	滑川市民会館	滑川市寺家町104	813		342
上市	北アルプス文化センター	中新川郡上市町法音寺1	1000		
舟橋	舟橋会館	中新川郡舟橋村海老江147			270
立山	立山町民会館	中新川郡立山町前沢2385		750	
氷見	(H26.12.31閉館)氷見市民会館	氷見市本町4-10	805		

（4）県内図書館の整備比較

県内の各市町村の人口に対する図書館の規模についての比較です。人口４万～5 万人の同規模自治体の図書館数の数値目標 2.3 と、図書館の床面積の数値目標 3,295 ㎡に関して、氷見市は、砺波市、魚津市、黒部市と比べ大きく下回っています。

人口段階	図書館	図書館数			図書館専有延床面積		
		数値目標	県内実数	対比率%	数値目標㎡	県内実数㎡	対比率%
30万人～		6.8			13,448		
417,893	富山市		26	382.4		13,489	100.3
15～20万人		6.2			6,258		
170,683	高岡市		5	80.6		5,482	87.6
8～10万人		2.9			3,966		
91,784	射水市		5	172.4		5,489	138.4
5～6万人		2.4			3,125		
51,465	南砺市		5	208.3		5,878	188.1
4～5万人		2.3			3,295		
48,085	氷見市		1	43.5		1,652	50.1
48,777	砺波市		2	87.0		1,996 (3,236)	60.6 (98.2)
42,943	魚津市		1	43.5		2,789	84.6
41,029	黒部市		2	87.0		2,808 (3,300)	85.2 (100.1)
3～4万人		1.5			2,302		
33,042	滑川市		2	133.3		3,573	155.2
30,450	小矢部市		2	133.3		1,493 (2,367)	64.9 (102.8)
2～3万人		1.3			2,343		
26,383	立山町		1	76.9		1,200	51.2
25,394	入善町		1	76.9		1,354	57.8
20,855	上市町		1	76.9		1,233	52.6
1～1.5万人		1.4			1,380		
12,295	朝日町		1	71.4		1,449	105.0
～0.8万人		1.0			950		
2,931	舟橋村		1	100.0		1,367	143.9

「貸出密度上位の公立図書館整備状況・2015」と富山県内の市町村図書館との比較
参照：富山県図書館研究集録　第48号　富山県図書館協会　平成29年3月より

注釈　・数値目標は「人口段階別」ごとの「貸出密度上位10%」の図書館の平均値を算出した数値です。
・（　）は現在計画中の面積です。

5. パースイメージ

公共空地活用計画編に掲載しているパースイメージ拡大版を示します。

○ ひみ文化交流プラザパースイメージ（国道 415 号沿道）

○ ひみ文化交流プラザパースイメージ（広場と公共棟・民間棟）

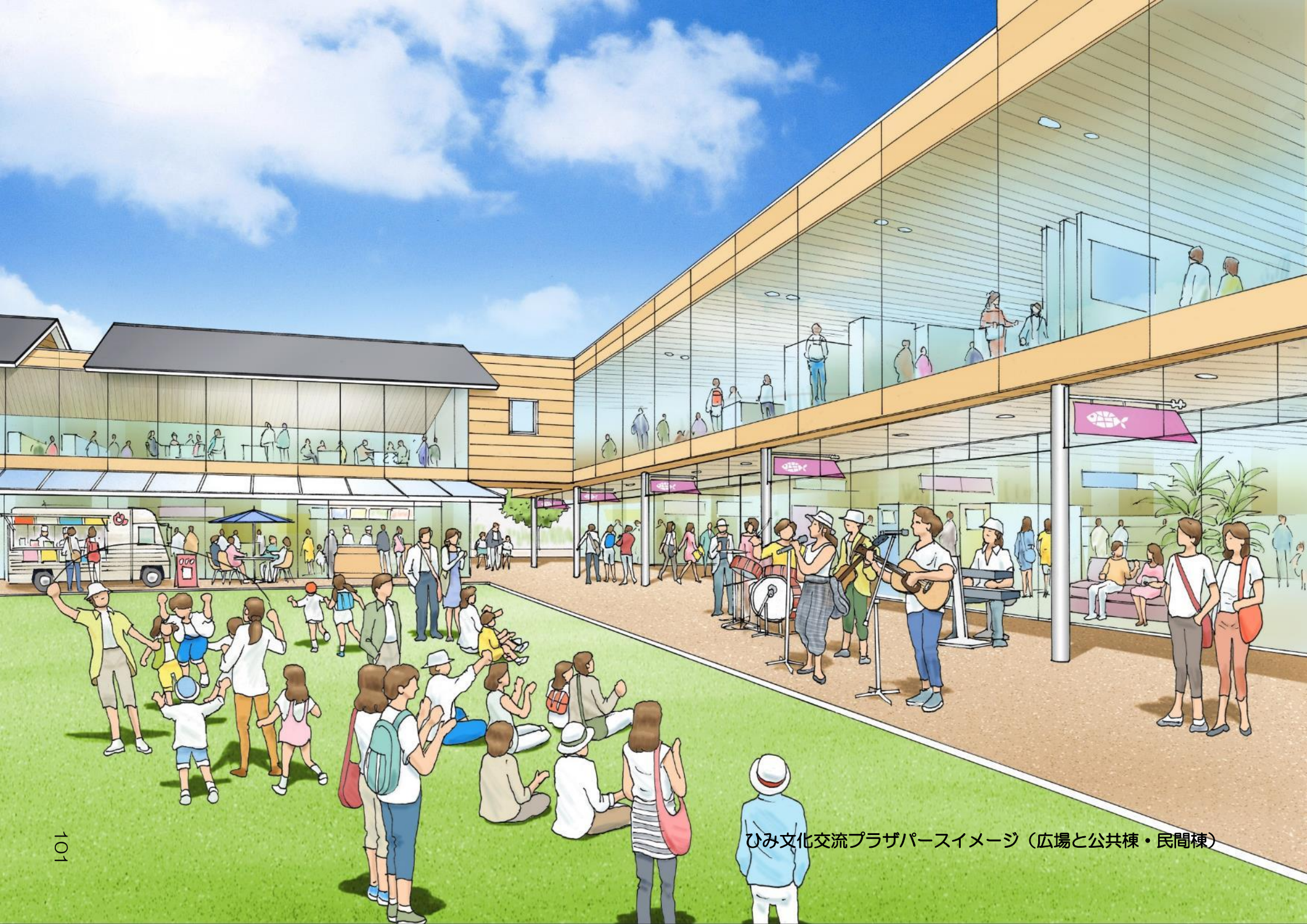
○ 氷見まんが広場パースイメージ

○ ひみ発見館パースイメージ

○ ひみ子育ての杜パースイメージ

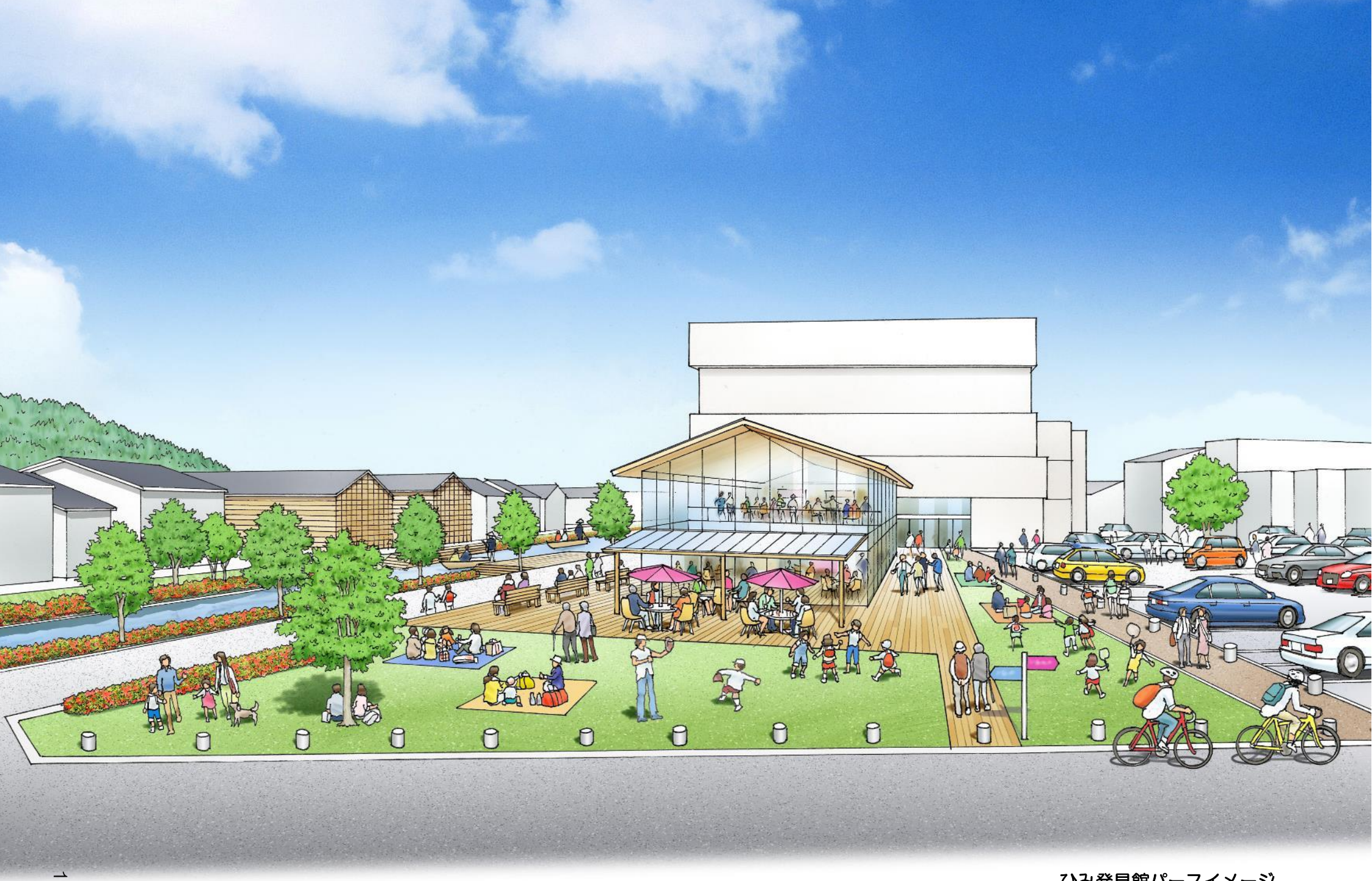
○ 氷見さかな館パースイメージ

ひみ文化交流プラザパースイメージ（国道 415 号沿道）



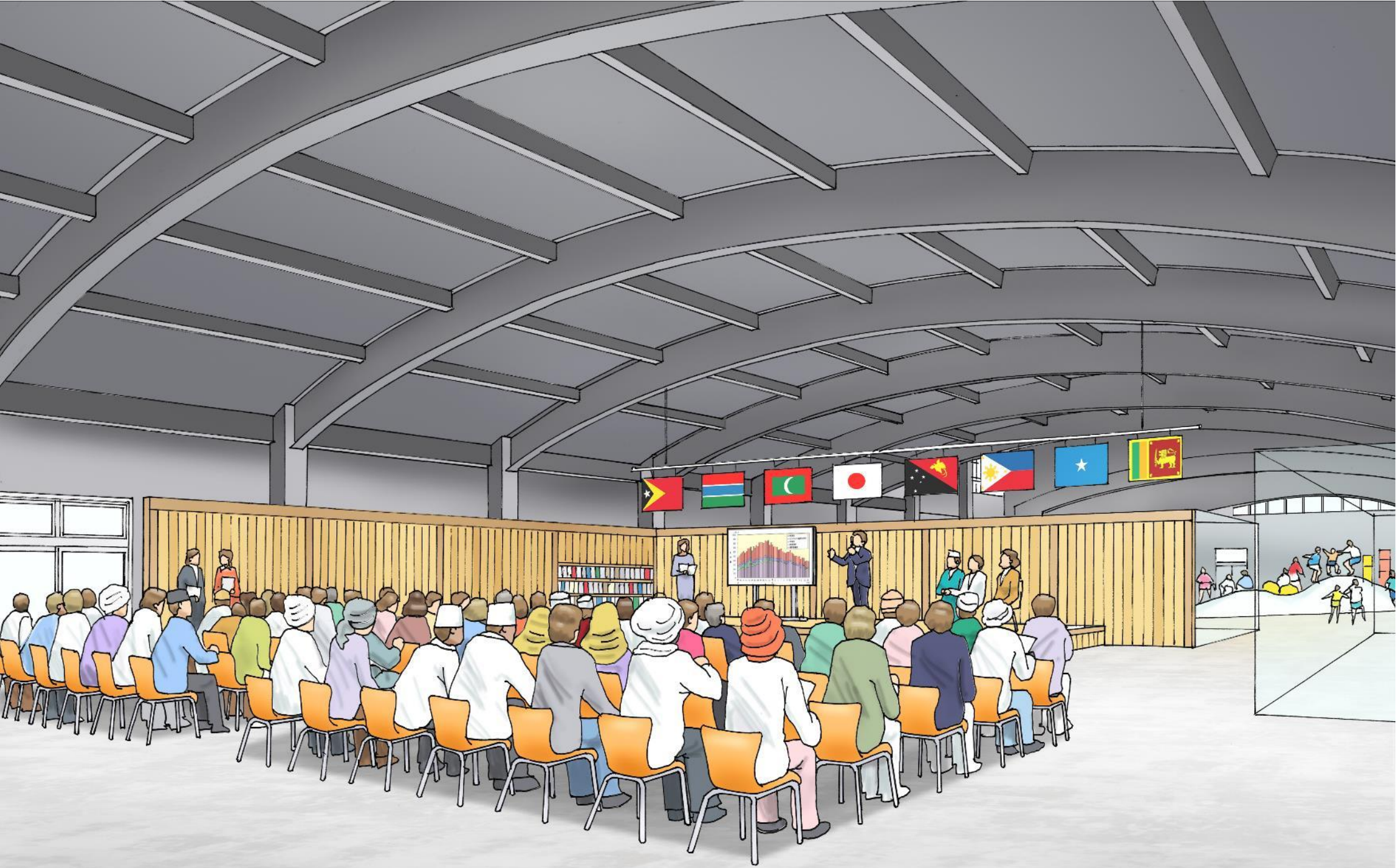
ひみ文化交流プラザパースイメージ（広場と公共棟・民間棟）

氷見まんが広場パースイメージ



ひみ発見館パースイメージ

ひみ子育ての杜パースイメージ



氷見さかな館パースイメージ

氷見まちなかグランドデザイン

〒935-8686

富山県氷見市鞍川 1060 番地

氷見市まちづくり推進部都市計画課

TEL 0766-74-8078

FAX 0766-74-8104

E-mail toshikeikaku@city.himi.lg.jp

ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞｱﾄﾞﾚｽ http://www.city.himi.toyama.jp/

調査協力：創建築事務所・エックス都市研究所策定共同体